



# サンビオティック農業で大豊作！

## スイートコーン 栽培基準



### ◆本圃◆

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
1～2月	育苗期 (育苗の場合)	育苗培土(市販) 鈴成	必要量 培土に対して5%	混和	培土には、病気に強く、花芽分化しやすい苗を作るため、鈴成を培土に5%混和します。有機質の少ない培土の場合は、五穀堆肥を10%混和します。上記混和後2週間程度おいて良くなじんでから使用します。
		菌力アップ コーソゴールド	200倍希釈 500倍希釈	7日おきに灌水 (4回以上)	左の希釈倍率は、ポット育苗の場合です。セルトレー育苗の場合は、根鉢が巻きすぎ、老化または肥料欠乏になりやすいため、菌力アップは500倍希釈と薄めに行います。
		コーソゴールド タスケルプ！	500倍希釈 5000倍希釈	葉面散布 (7～10日おき)	花芽分化促進となります。防除の際、農薬とコーソゴールドを混用して散布すると良いです。病害虫多発時は、本気Ca(マジカル)2000倍を加用します。
2～3月	本圃準備 (元肥)	完熟堆肥 有機百倍 鈴成	2～3トン 6袋 10袋	土壌混和	あらかじめ土壌分析に応じて、pHを5.5～6.5程度に調整するため、石灰、苦土などを施用しておきます。苦土入りのカキ殻石灰などがお勧めです。 その後、2～3トン程度パーク堆肥・牛糞堆肥などの堆肥を施用します。五穀堆肥の場合は50袋です。豚糞、鶏糞の場合は、500kg以下とします。堆肥施用後、菌力アップ200倍を散布して混和し、1か月置きます。 元肥の有機百倍は、マッスルモンスターに置き替えてもよいです。その他、苦土や加里などの不足は、市販肥料で補います。(硫酸苦土、硫酸加里) 前作の残肥が多く残っている場合や、クリーニングクروبとして栽培する場合は、その程度に応じて減肥または無施肥でも構いません。
3～4月	播種、または定植	菌力アップ 糖力アップ コーソゴールド	5リットル(200倍) 5kg(200倍) 2kg(500倍)	灌水7日おき 4回程度	直播の場合は、播種後菌力アップ200倍液をたっぷり灌水します。定植の場合は、定植前に左記液肥を十分灌水し、またはどぶ漬けしてから定植します。 発芽後、または定植後から左記液肥の灌水を定期的に行い、根がしっかり張るまで4回程度は継続します。 括弧書きは参考の希釈倍率です。
4～5月	生長促進 生殖生長促進	コーソゴールド タスケルプ！	500倍希釈 5000倍希釈	葉面散布 随時	コーソゴールドで花芽分化を促進、タスケルプ！で葉緑体を増やし成長促進します。 元肥が効きすぎて樹勢が強すぎる場合は、本気Ca2000倍希釈を混用します。 葉面散布は、農薬との混用はOKです。
5月～ 生長期	追肥	有機百倍 硫酸カリ	3～4袋 × 2回 4kg × 2回	土壌散布 2回程度	本葉5枚ごろ、および雄穂出穂期ごろに左記の追肥をし、中耕します。葉色、草勢などを見極めて追肥のタイミングや追肥量は調整します。元肥に苦土を施用していない場合は、硫酸苦土肥料5kg程度の追肥も検討します。
		菌力アップ 糖力アップ	200倍希釈(5L) 200倍希釈(5kg)	灌水 追肥後、および 雌穂肥大期 2～3回	追肥後すぐに雨が降らないときには、菌力アップ、糖力アップを1トン程度の水で希釈して十分に灌水します。また、雌穂の肥大期には、土壌水分の管理には十分配慮し、水を切らさないように注意し、高温時や乾き気味の時は左記灌水を実施します。 絹糸抽出期以降の灌水時、害虫発生があるときは純正木酢液1000倍、または本気Ca(マジカル)2000倍の希釈液を灌水または葉面散布します。
	生殖生長促進、品質向上、病害虫の対応	マジ鉄 本気Ca(マジカル)	5000倍希釈 2000倍希釈	7日おきに 葉面散布、または 灌水 (月2～3回)	生長が旺盛なときほど、同倍率で葉面散布、または灌水を行い、病害虫の予防、品質向上を兼ねて実施します。
水害・湿害発生時	応急対策	酸素供給材 菌力アップ	規定量 10リットル	灌水2回	大雨水害等により冠水した場合は、MOXなどの酸素供給材を速やかに灌水し、翌日菌力アップ10L(50倍希釈)で灌水する。3日後、再度菌力アップ10L(50倍希釈)を灌水する。

※糖力アップは、点滴灌水、ドリップ灌水では詰まりますので使用をお控えください。→ななちゃんをお勧めします。

※暖地の促成栽培体系のモデルです。地域、作型によって、時期が異なりますので、生育ステージで判断してください。

※可能であれば、土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。

※品種や時期、土壌条件等によって、施肥量は加減してください。